

地域環境研究会発刊!

地方の時代に備え、地域の問題は地域で取り組もうと、計画学長の集団作りを呼びかけた「福井地域環境研究会」の初会合が、十一月六日午後六時から、福井県私員会館四〇四号室で開催された。

会合には、研究会入会希望者十七名が出席し、研究会の名称を決定、会の運営方針及び役員の選出を行った。

会の運営方針については、呼びかけ人を代表して本多義明氏から、運営方針案が提起され、討議の結果、次のように決まった。

【分科会】 研究期間を一年程度とし、住・水・水の三つの分科会をもつ。研究会の基本活動であり、会員は必ず自分の分科会に属し、月一回程度に分科会を開く。

【談話会】 当面する地域課題について自由に討論する。毎月程度の間隔で自由参加。

【理論研究会】 地域環境問題の解決に必要な基礎理論の研究を、毎月一回、自由参加。

【研修会】 いわゆる地域調査実習であり、主として海外研修を目標とする。

【総会】 年一回開催、研究発表会、活動報告、会計報告を行う。

活動は一年を単位とし、十二月に概算誌を発刊する。

会長に富田氏、副会長に本多氏 — 役員選出 —

初会合で選出された役員は次の通りである。

会長	富田 博太郎氏 (福井県計画課長)
副会長	本多 義明氏 (福井大学助教授)
事務局長	北嶋 重昭氏 (コミュニティー企画・研)
分科会長(住)	田永 六郎氏 ()
・ (水)	近藤 幸次氏 (福井県工本部)
・ (木)	児玉 忠氏 ()
談話会担当	島匠 東吾男氏 (企画開発部)
理論研究会担当	本多 義明氏
研修会担当	中村 元則氏 (三和測量・株)
会計担当	村松 俊明氏 (コミュニティー企画・研)
広報担当	加藤 哲男 (福井県工本部)

早くも役員改選か?

11月6日に決定された役員が、分科会の開催に伴い、変更される見通しが強い。それによると、専分科会長の近藤氏は12月1日付の県職員異動により、福井市本事務所業務(兼務地動務)となったため、分科会の運営が円滑に行えないという本人の申し出によるものである。また、住分科会長の田永六郎氏は、本職の交代を理由に辞任の要望が強く、島匠氏への改任の可能性が強い。これに伴い、談話会担当が、果たして誰にまわることになるのか。目下交渉中とのことではあるが興味深い。

シンボルマークに
佐野光三氏
福井地域環境研究会のシンボルマークを設計した佐野光三氏。発表は次号。

すぽーと
福井銀行に口座開設

Live	Water	Vehicle
12月14日 田永分科会長と島匠氏との間で、役員人事ともからめて、分科会の運営に関する会談が行われる予定である。 来年度の活動が期待されている。	12月5日(コミュニティー応接間) 全員出席。 田永氏より、水・土・人・の三元的な地域分科会が展開された。近藤氏より、道路雨水排水の問題が提起された。 分科会長の児玉氏からは、都市河川・水資源・環境管理・水圏循環などのテーマが示され、討議を行った。その結果、共通の地域概念として、都市河川・雨水汚濁・環境調和を総合的に考察することになった。 次回(80年1月11日(金)) 近藤氏より、雨水汚濁の文献紹介。加藤氏より、最近の工本学会における都市排水の問題意識が、その小冊子報告される予定である。	11月27日(コミュニティー応接間) 全員出席。 本多氏より「福井都市圏における道路網形成に関する考察」として案が出され、全員で検討した結果、道路網だけでは十分ではないという指摘があり、交通網形成に関する考察を行うことに決定。12月中旬までに、道路網・バス網・鉄道網の形成過程を調査し、その成果の収集状況をみて、来年度2月以降、本格的な研究活動に入る予定である。 研究案(本多氏作成案) 1. 交通網形成の歴史的考察 2. 地域開発の歴史的考察 3. 関係論(交通網形成と開発) 歴史的関係論 詳細的関係論。

※ 総会告示 子告 ※

福井地域環境研究会第一回総会を、左記の通り開催します。

記

- | | |
|------|-----------|
| 一、日時 | 未定 |
| 二、場所 | 未定 |
| 三、議題 | 規約の承認について |

その他

(お詫び)
事務局の不手際により、総会の開催が遅れておりますが、日時等が決まり次第お知らせします。ので、悪しからず御了承下さい。

論衡

組織の維持と活動について

人間は社会的動物だといわれていますが、猿の社会的活動と異なるのは、知的生産のための社会的活動にあります。猿や蟻は生存のための労働組織を維持しています。この組織は生存や種の保存を目的とするもので、すなわち人間社会の知的生産のための組織とは、それとは異なる、より高度なものです。本来人間という種が共同生活を始めたのは生存のためであつたはずですが、文明が高度に発達した（といつても可い）現代においては、組織の改廃が日常茶飯事になっています。この原因が組織固有のものであるのか、積成である人間の性質であるのかもよくわかりませんが、明らかにそれによつて、現代社会に於いては、知的生産意利と目的とを以てない組織が長期間存在する（ことは希な）ようです。その存在意義はさうした意味から大々重要で、す。

理論研究会 からの お知らせ

地球環境問題の解決に必要な基礎理論を学習するためのテキストが決まりました。

「システム分析」 今村 和男 編

発行 日科技達 1 2700-

- 目次
- | | |
|-----|------------------------|
| 第1章 | 政策科学への模索 |
| 第2章 | 社会的紛争におけるシステム分析 |
| 第3章 | 生活の質 (quality of life) |
| 第4章 | 社会指標 |

第1回理論研究会 開催予告

テキストがなくても 希望者は自由に参加して下さい。

1980年2月14日(木) 於 三ツ木

信頼すべき筋からの情報によれば、今回の総会において大巾な役員改選が行われる模様である。まず確実なところで住分科会長の富永氏が副会長に転任、後任には萬匠氏。又、会長富田氏と副会長本多氏の交替も有力視されている。萬匠氏の

續・役員改選情報

後任として談話会担当には、広瀬広一氏の声も聞かれている。初会合以来空席の顧問には、五十嵐・栗田両氏への交渉が進展中とのことであるが、結論はいずれも総会において明らかにされるであろう。

(R E F 通信社 人事部 特派)

分	科	会	だ	り
Live	Water	Vehicle		
役員人事で総会開催が遅れているが、最新ニュースとして福大が、 会長に福大教授？ 教授を会長に、交渉中であるとの情報が入った。これが実現すれば、副会長は、大分県、官公庁、民間の三分野が、 スポッ 次回までに、各自がテーマを選び、発表し合う。 次回 2月21日、於 Community 分科会長代行に 葛匠東雄男氏(県庁)	1980年1月18日、於 Community 地域の問題について自由な話し合いをする。テーマをばらばらに色々な話し合いを重ねていくうちに、役々ばらばらにする。職分・言葉の問題、宗教 etc 話題豊富。 次回までに、各自がテーマを選び、発表し合う。 次回 2月21日、於 Community 分科会長代行に 葛匠東雄男氏(県庁)	80年1月11日 の例会延期 次回開催日 未定 活動停滞、空白の日々続く。		1980年1月24日、於 Community 交通網の形成に関する資料収集を3班に分けて行うことに決定。 ① 施設班、杉森、近藤 ② 流動班、本多、植葉 ③ 開発班、北島、平野 ① 班では鉄道、道路率、舗装率を ② 班では通勤口域、ルート、人員を ③ 班では南苑のインパクト、関連性を昭和35年・45年・55年の3時点について調査する。解析は春以降の予定。 次回、2月26日。

第一回理論研究会 開かる

役員人事暫定のまま、各分科会も軌道に乗り始めた二月十四日、第一回の理論研究会がCOMに接合して開催された。テキストは前号で紹介したように、「システム分析」と決まっていたが、時間的余裕がなかったため、参加者で入手している者が少なかつた。そこで第一回は、テキストの目次のコピーを配布し、今後の活動方針とスケジュールを定めた。次に、本多氏からオペレーション・システムの地域科学特集号抜き刷り「都市の形」についての紹介があり、活発な討論が展開された。この報文は、都市の形を幾何学的指標と積分幾何学的手法を用いて分析を試みたものである。データには全国十三都市の中間十二メートル以上の道路、鉄道、河川を写しとり、四つの指標(面積、長さ、個数、角度)を測定したものを採用している。報文の中で最も不明確だった「積分幾何」については、次回改めて抜き刷りが配布される予定。当日決まった内容は左記の通りである。

理論研究会開催要領

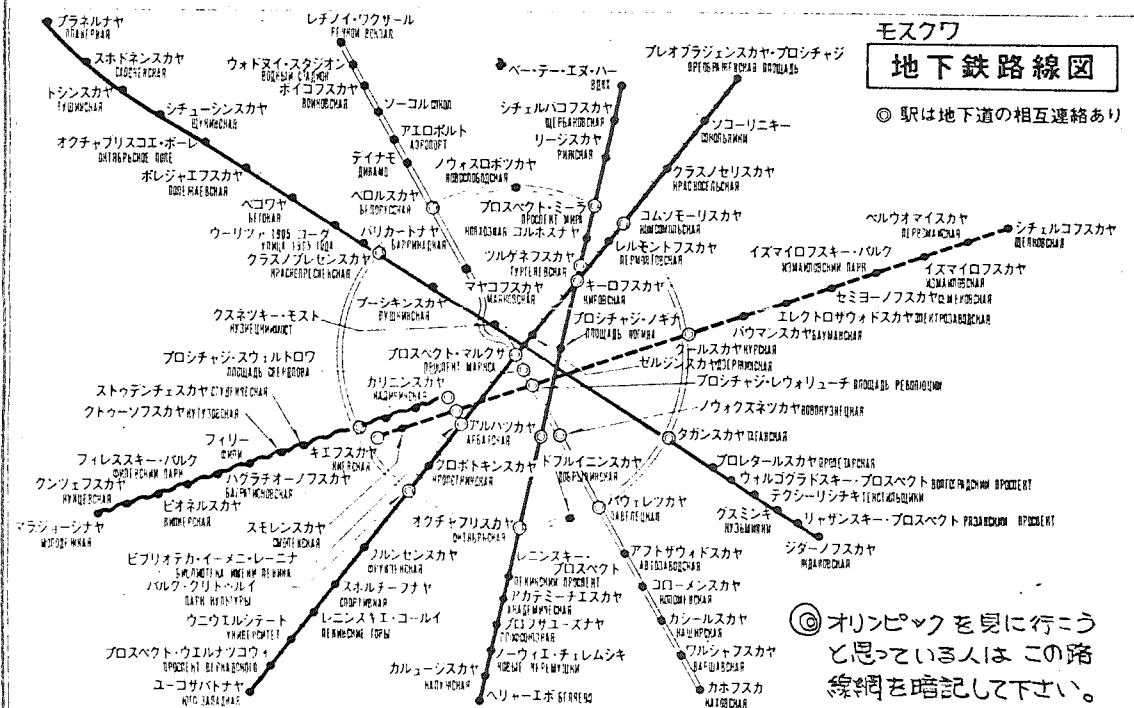
開催日 毎月最終木曜日
方法 論議形式とするが
毎回 発表者と討論者の2
名に担当責任が負っている。

第1回	3月27日	第I章	発表者 加藤 藤 討論者 児玉
第2回	4月	第II章	
第3回	5月	第III章	未定
第4回	6月	第IV章	
第5回	7月	第V章	
第6回	8月	第VI章	

新入会員の紹介

南 明氏 昭和二十六年六月十五日生 福井大学建設

工学科卒、現在三和測量計画部勤務
血液型A、住分科会所属



第1回談話会開催!

去る3月6日(木)PM6:30より、県職員会館205号室において談話会が開かれた。当日のテーマは「北欧レポート」。昨年訪ソ青年の船でソ連とフィンランドを訪れた近藤幸次氏のスライド報告がなされ、8人の出席者から熱心な質問が相次いだ。当日はコーヒー・ピザもあり、今後のテーマなどについても多くの提案が出された。なお、談話会の担当には、広瀬広一氏(県下水道課)が就任することになりましたので、宜しく御協力下さい。

分 科 会

Live

1980.2.21 於 Community

前回に引き続き、テーマをいざり込むためのフリー・ディスカッションが行われた。話題の中は広く、屋永氏からは「場の形成と時空の原理」という哲学的問題の紹介があった。傾向としては、集落の形成過程に取り組むようだが、3月の例会で最終的な結論を得る予定。

次回 3月25日

Water

1980.2.22 於 Community

報告1(塚本) 雨水の都市域からの流出について 問題点を整理 文献「一時貯留の効果に関する検討(ケーススタディ)」の紹介
報告2(加藤) 54年度土木学会全国大会発表の検討と、抜き刷り
討論、福井市をモデル・ケースとして治水事業・下水道事業・都市開発の経緯を調査し、その関連性を分析することとする。

次回 3月19日

Vehicle

1980.2.26 於 Community

施設班 昭和35年・45年・55年における道路網・交通量の報告
流動班 国鉄福井駅・県内各駅の利用推移の報告
自動車・道路・交通事故等について福井県と全国の比較調査の報告
開発班 戦後の福井市における土地地区画整理事業の報告

次回 3月18日

あと2回程度 資料収集報告

会費納入の御願い 年額一万二千円(分割可)

諸君便高騰の折何かと御入用の季節とは存じますが、会の円滑な運営のために御協力を願います。

振込先 福井銀行普通預金口座 一六二五四九
口座名 REF事務局 北島重昭

REF 守備範囲 広がる。

地域環境研究会は、発足当初から幅広い分野の活動を目指してきているが、この四月から、会員の動向が多方面にわたる。その守備範囲が序々に拡大しつつある。まず果では、高田氏がグリーンベルトの造成工事に、近藤氏が道路改良担当に、児玉氏が港湾事業計画の分野に転動した。この結果、行政計画のデータ収集がより有利になったのを始め、その分野から討議に加わることになった。

また、大学関係では、県立短大経営学科の山下助教が入会され、経済面からのバックアップが期待されている。その他、福井医科大学の今野修平氏（地理専攻）についても、現在入会交渉が続けられており、従来の土木建築系分野会員に対する、新しい感覚の導入が、今後の活動に生かされるだろう。

新入会員の紹介

山下 博氏

福井県立短期大学経営学科助教

福井市大畑町九七五二の二 TEL 076-2611
商分科会の創設を呼びかける。

福井県人事異動情報

去る4月1日付の定期異動で、4名のREF会員の職場又は役職が変わりました。新しい職場・役職は次の通りです。会員名簿は各自で訂正して下さい。

長村一男氏 土木部計画課 区画整理係 主査

高田幸男氏 総務係 主査

公害防止事業団へ出向。 TEL 076-82-5137
坂井郡三国町 公害防止事業団福井建設事務所

児玉 忠氏 土木部港湾課 港湾係 技師

近藤 幸次氏 土木部道路建設課 改良係 技師

この結果、土木部 11 課のうち、REF会員のいない課は、用地課、砂防課、道路維持課、建築課、営繕課の5課となりました。

なお、広報担当の加藤哲男は、河川課の機構改革により企画調査係となりました。

第2回理論研究会報告 55.4.9 18:00~20:00

報告者 児玉 討論者 本多

(報告) システム科学 第1章 政策科学への模索、プロローグ

従来のOR、システムズ・アナリシスが数学モデルに熟中するあまり、定量化に偏重したこと。費用効果の局面だけの分析で、公平・公正といった価値の問題を扱きにしていたこと。学際的努力の欠如といった反省から政策科学の誕生を促した。この科が当面する課題①価値測定の方法 ②住民参加システム ③社会的紛争処理のルール ④人間の幸福につながるインデックス(社会指標)づくり ⑤政策評価のためのフレームワーク

(討論) ①デルファイ法等で価値の数量化が試みられているが、その説得力は？ ②いかにして、実際の政策決定・意思決定に有用な科学たりうるか？ ③行政目標指標、行政活動指標、及び社会状態指標とは具体的な事例ではよく分らない ④ローマクラブ日本チームの「人間の行動と価値観」の有効度の概念をめぐり討論 ⑤今回はインロク的内容で、次章以下の内容についての討論が期待される。 文責(忠)

次回 5月14日(水) 第2章 報告者 南 討論者 稲葉

本多助教居住居変わる	分科会だより		
	住	水	車
新住所は、文京区目黒 一丁四水川ハイソ 二〇二号 電話は変更なし 二一六、九五 すぽーと また、村松氏の福井滞在は 中央三丁目川市ビル 三二五(電話なし) とになりました。	1980.3.25 於 Community 今回で最終的なテーマを決める予定であったが、決まらず、方法論の展開がまとまった。 風土、階級性・産業・交通の視点から、県内2~4市町村(集落・まち)を、時点(明治・大正・戦後)を基準として歴史を遡る流れと、下る流れの2通りについてとらえる。 次回 4月22日(火) 対象とする「まち」を決める	1980.3.19 於 Community 報告1(児玉)「都市と水」認識構造についてフローチャートに整理。「都市と治水事業」「下水道整備の現状と課題」抜き刷りの紹介。 報告2(長村) 土地区画整理事業の経緯、戦後復興における都市排水路網の整理経緯 報告3(坂本) 都市排水、都市河川、水質汚濁関係文庫の提供 次回以後 各人分担で内容報告。 4月 加藤・広瀬 5月 児玉・村松 6月 坂本・長村 次回 4月23日(水)	1980.3.18 於 Community 施設班 交通量の推移(中間報告) 県予算の道路費の割合の推移(中間報告) 流動班 福井県内並びに福井駅における国鉄利用者の推移 南系班 戦後福井市における区画整理事業の報告 次回 4月22日(火)

又三三 総会開催決まる

昨年十一月の花足以来、管定役更のなき通
 過せられてきた福井大域系愛研究会（略称REI）
 の第一回総会の開催日が、八月三十四（土）
 午後二時から決まりました。能念では、現
 約及び新役員が討論せしめることになっていま
 ほか、この半年間の活動報告や、今後の事業
 計画なども発表せしめる予定になっています。
 また、分科会相互の交流の機会も少いことが
 ら、当日は総会も予定されているようです。
 この半年間、各分科会や理論研究会では活
 躍をみせ重宝されており、今回の総会で体制固
 めを行います。新役員を育成することが期待され
 ています。REIの会費は、全て事業の傍ら
 活動しているため、時として赤字も起こりま
 したとはいかと思念せしめるところもありまし
 たが、この半年間で、この懸念はほぼ払拭され
 いたようにみえます。しかし、より善美な発
 展を期するためには、会員の情熱が不可欠で
 あることは、言うまでもありません。

REF 總合 告示

日時 1980年8月30日(土) PM 2:00 ~

場所、福井県職員会館 204号

- 議事、1、規約承認
2、役員承認、
3、活動報告、
4、事業計画発表
5、各分科会の研究発表

当日は PM 5:00 ~ 6:00、芝親会を催します。会費は
3,000 円(予定)。后ろく車の使用は御遠慮下さい。

第3回理論研究会報告 53. 5. 14

報告者 南氏 討論者 雅素氏

(報告) 岡氏より、A4版3枚にかたるレジュメが配布され、「社会
紛争を体系的に分析して、その特性と処理システムについて、
現実の紛争にもとづく実証的資料を整理し、紛争解決への方策
を提示する」テーマに、第2章の内容が報告された。

(討論) 本章では幾何的討論が展開されたが、ここではその項目について、主なもの列記しておく。

外部効果・不可両立性・社会的費用・競争の発展過程
原因行動・内部状態の機能・処理行動・順機能性と
逆機能性

次回 6月12日(木) 第3章第1節 生活の質

報告者 村松氏 討論者 加藤氏

第4回理論研究会報告 57.6.12.

報告者 村松氏 討論者 本多氏

第3章 3.1. ワンド社のタリキーらによるQOL研究

(討論) Quality Of Life (生活の質)を形成する要素

一つのQOLのレベルごとに各要素にヒトとの関係があること
「幸福」は相対的概念である。→ 個人の期望レベルと
実現状況

デルファイ法等による QOL 指数の算出

(報告) 本多氏より "Transport studies and the quality of life -
(Environment and Planning, A 1980 Vol 12) に引いて報告

次回 8月7日(木)第3章 3.2 三要素研究のQOL研究

報告者 加藤氏 討論者 氏。

[illegible][illegible]

分科会だより 特集号

各分科会から報告を、そのまは掲載しました。
なお、十二月初旬には第一期報告書の編集委員会が開催し
うす予定です。各分科会の成果が期待されます。

水分科会

活動のあしあと

- 第一回 五十四年十二月五日 分科会でのテキストを授け
- 第二回 五十五年三月二十日 雨水の都市域からの流出に関する論文を
資料を授け(塚本氏)
- 第三回 三月十九日 福井市街地の交通を調査し、都市と水について
認識を深める(塚本氏)
- 第四回 四月二十五日 流出解析の文献発表(村松氏)
- 第五回 五月二十日 福井市の河川事業推移(加藤氏)
- 第六回 六月二十五日 論文報告(塚本氏) 福井市の下水道(塚本氏)
- 第七回 七月二十日 総会に向けての準備打合せ。シス原稿分相
今後の方針(総会レジュメ)
- 八回 八月二十五日 八回 八月二十五日
- 九月 基本方針の確認
- 十月 作業及び中間検討
- 十一月 分析、計算(マシコ)
- 十二月 まとめ

(文責 加藤哲男)

車分科会

前期活動報告

開催日

- | | | | |
|-----|--------|-----|--------|
| 第一回 | 一月二十四日 | 第二回 | 二月二十六日 |
| 第三回 | 三月十八日 | 第四回 | 四月二十二日 |
| 第五回 | 五月二十七日 | 第六回 | 六月十七日 |
| 第七回 | 七月二十二日 | 第八回 | 八月十九日 |

活動概要

「福井都市圏における交通網の変遷」と題し
て、昭和三十五年から現在に至るまでの福井
都市圏における交通網の変遷を、次の三つの
班に分けて活動を行った。

施設班

- ① 福井都市圏の道路網の変遷の調査を行った。
- ② 道路に対する投資額とそれに対する整備
率の調査を行った。

流動班

- ① 交通手段の変化として国鉄福井駅の乗降
客数や自動車保有台数の変化を調査した。
- ② 道路交通量の変化を調査した。

開発班

- ① 福井市における区画整理変遷調査を行った。
- ② 施設の立地動向調査を行った。

以上の他に基礎データとして、人口及び
就業状況調査を行った。

(文責 近藤幸次)

時々分科会の一つとして「住み方」などと大それた提案を
したことを後悔することがある。「住居」とか「宅地」というような
名称ではなく「住み方」という抽象的な名称としたこともあって、各人
各様に「住み方」の仕方や認識のちがいがあつた。

住分科会

「問題意識、研究目的、研究
視座」を中心とした前期の
とりまとめの進め方をしてしま
った。

このように我々のいふまでの経緯をみてみると、「住み方」分科会
がめいめいとしていふことは、実は我々自身にもよくわかつて
いない。え、かつあまりにも広く、それに比べて我々の力量は、
あまりにも小さい。このことを痛感せずにはいられない。
とするならば、我々がやることは、広い視野を持ったうえで、
小さなところからテーマを取り出すこと、広い視野を持ったうえで、
意味において「住み方」における「住み方」の形成を取り上げ、
「住み方」とは間違ったものではなかつたことを確認している。ただ、指し示さ
すは、土台がしっかりしてない。なかつたことであり、住み方を考
えるための、それなりの広い視野、即ち全体像を把握したうえで、
常にそれを確認しながら進めるべきであったと
深く反省している。

今年も総会まで残り時間も少ないことであるし、また、
今後とも継続させるためにも、基礎作りを急ぐ。このまま
提起した、討議したことを内容として、先に述べたように、
「住み方」を考えるためには、何を検討すべきか(「それなりの
広い視野」を体系的にまとめること)を、最終的な目標とした
いと考えている。

(文責 葛西東雄男)

REF 新体制発足。(第二回総会開催される)

去る八月二十四、午後二時から、県職員会館二・六号室において、福井地域環境研究会の第二回総会が開催された。総会では、まず承認事項の審議が行われ、規約及び役員が承認されたの続き、新入会員 南明氏及び山下博氏の両氏が紹介された。引き続き、各分科会の研究発表に移り、昨年十二月の発足以来の活動状況が、水、住、車の各分科会から報告された。報告内容は各々充実しており、壁に張りつけられた図面等に対して熱心な討議が交わされた。この後、半年間の活動報告として、本多氏から理論研究会が加藤氏から談話会が、村松氏から会計が報告された。また、新役員からは、第一期の事業計画が発表されたが、この中で、研修会担当の海外研修「フィリピン予備調査」が注目を集めていた。なお、海外研修「フィリピン」についての情報は、REF ニュース等で逐次お知らせする予定となっている。

午後五時から、懇親会が催されたが、終始ほぐやかな雰囲気の中で、歓談が続ぎ、午後七時に閉会した。

改選された役員の方々は次の通り。(敬称略)

会長 畠永 六郎
副会長 富田 伊太郎
幹事長 本多 義明(理論研究会代表)
幹事 北島 重昭(総務担当)
“ 塚本 勝典(談話会担当)
“ 村松 俊明(研修会担当)
“ 児玉 忠(水分科会長)
“ 萬匠 東吾男(住 “)
“ 近藤 幸次(車 “)
“ 広瀬 逸夫(会計担当)
“ 加藤 哲男(広報担当)
監事 広瀬 乙一
顧問 五十嵐直雄・栗田幸雄・今野修平

第2次理論研究会
テキスト 決まる!

情報理論の基礎

小沢 一雅 著
国民科学社 刊

目次

発表者(予定)

1. 序説
2. 情報量 村松 10月
3. 情報の発生と伝達 稲葉 11月
4. 符号化 児玉 12月
5. 連続的信号 加藤 1月

第7回理論研究会 開催予告

10月2日(木) 於 Community

第5回理論研究会報告 55.8.7(木)

報告者 加藤氏

第3章 3-2 三菱総研のQOL研究

人間の価値観を B. D. P の3要素の相対関係から13のパターンに分類し、この13分類の評価軸をもつアンケート調査の方法を討議した。その結果、8月30日の総会時にアンケート調査を実施することに決定。(結果は次号に掲載予定です)

第6回理論研究会報告 55.9.4(木)

報告者 稲葉氏 討論者 村松氏

第4章 社会指標 「システム分析」最終回

社会システムをモデル化する試みには、最適化と適応化の2つのアプローチがある。こうしたモデルに用いられる社会指標は、認識・評価・制御の3つに分類される。これらの指標は、政治・行政・社会活動のシステム間を結ぶものとなっている。社会指標体系の例としては、東京都福祉指標・埼玉ダイナミック・モデル・青川県アウト・プット指標などがある。(おわり)

新入会員の紹介
奥居 稠朗氏三和測量建設株式会社、水分科会
取務・年令・血液型 不詳(調査中)

分 科 会 だ ょ り

住

水

車

1980.9.16 於 Community

城下町プランニングに関する学習
再度、分科会の方向づけを決める
ための検討を行う。今回と次回の
2回にわたり、KJ法を用いて、徹
底的にとりまとめる予定。

じゅう じゅう
果たして 住分科会は自由分科会
の汚名をはらすことが出来るか!

次回、10月7日(火)

1980.9.24 於 Community

今回より奥居氏加わる。
市街化と治水負担について、底喰川
をモデル流域として、分析を行う。
作業分担、児玉⇒まとめと解析モデル
塚本⇒基本図と解析モデル、長村⇒土地
区画整理事業計画図、村松⇒空地のメ
ッシュデータ整理、奥居⇒基本図、加藤
⇒河川調査資料。
10月、資料収集・整理
11月、分析・計算
12月、とりまとめ

次回、10月8日(水) 作業

次回、10月29日(水)

次回 9月25日

於 Community

研修会(担当 村松氏)より、海外研修マシラ準備会のお知らせ
研修会では、目下旅行社との交渉・資料収集に取り組んで
います。その一部は、号外(二十四日付)で配付する予定です。
又、一回の準備会が十月七日(火)に開催されることにな
りました。参加希望者は出席して下さい。

REF
NEWS

号 外

研修会が送る

Philippines
フィリピン

特集号

'80. Sept. 24

(第2案) ¥105,000-

マニラ・ステイ

※価格は出発日より異なりますので、1、2、3の3点でご確認ください。

4日間 (105,000円(食事なし) 95,000円)より

出発日 4日間...毎週木・金・土・日曜日 15. 16. 17. 18

添乗員が現地係員がお世話します。

ホテルのヒルトン、フィリピンブラザ、または同クラスのホテル。

食事条件：食事つき...毎朝食、昼食1回、夕食2回。

食事なし...昼食1回。

(最低催行人員20名)

マニラ・ステイ4日間 (食事つき)

1	(午前)大阪発(午後)マニラ着。着後ホテルへ。	☐ 機 ☐ マニラ泊
2	(午前)マニラ市内観光(リサール公園、聖オーガスチン教会、サンチャゴ要塞などを廻ります)。(午後)タガイタイ観光。	☒ 機 ☒ マニラ泊
3	マニラ滞在。(終日)自由行動。 オプションツア-。(P. 10参照)	☒ 機 ☒ マニラ泊
4	(午後)マニラ発(夜)大阪着。	☒ 機 ☐ マニラ泊

(第1案) ¥82,000-

【日程】 1月14日(水)~ 1月17日(土)

日数	地名	時刻	交通機関	摘要	食事
1	名古屋 発 マニラ 着	午前 午後	航空機	チャーター機にてマニラへ 着後：ホテルへ (マニラ泊)	機 夕
2	マニラ			午前：市内観光 午後：自由行動 (op) タガイタイ観光 (マニラ泊)	朝 昼 夕
3	マニラ			終日：自由行動 (op) バグサンハン 溪流下り (op) コレヒドール 島観光 (マニラ泊)	朝
4	マニラ 発 名古屋 着	午後 夕刻	航空機	チャーター機にて名古屋へ 着後：解散	朝 機

(注) 発着時間により食事条件が変わることがあります。

(op): オプション・ツア- (別料金)

調査団総経費として、1人当り、約
150,000円を見込んでいます。

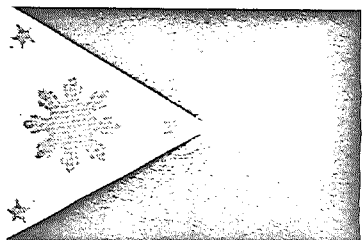
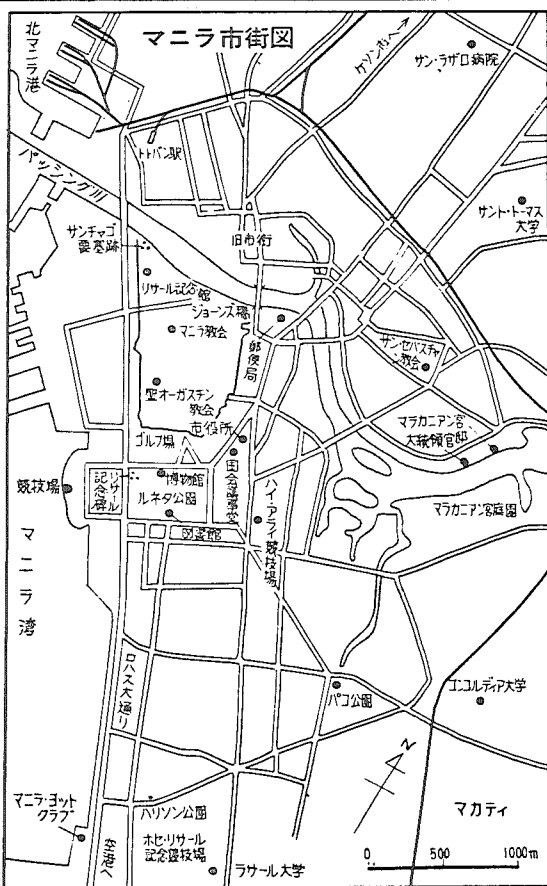
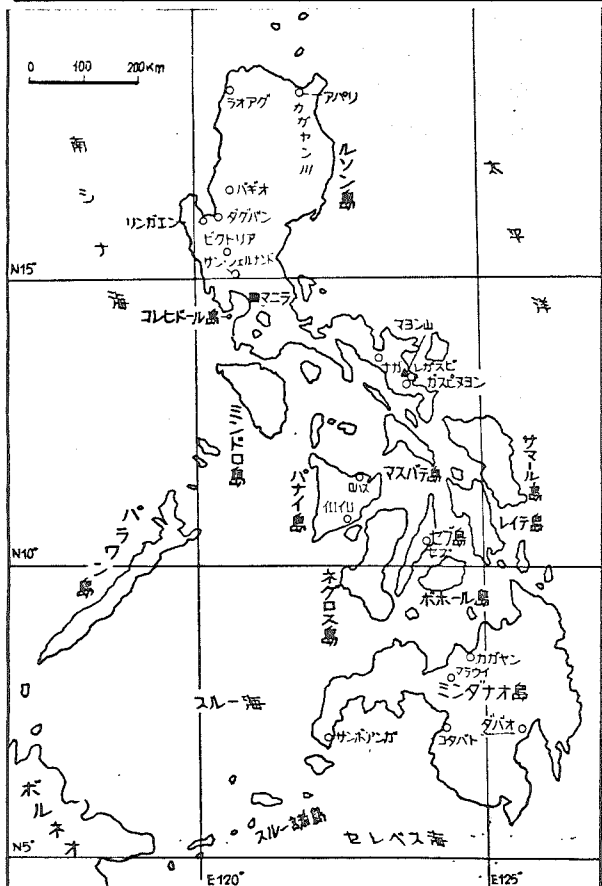
簡単なタガログ語

LET'S SPEAK IN TAGALOG

ようこそ(Yokoso) Mabuhay
おはよう(Ohayo) Magandang umaga po
こんにちは(Konnichiwa) Magandang hapon po
こんばんは(Konbanwa) Magandang gabi po
ごきげんいかが(Gokigen ikaga) Kumusta po kayo
よいです(Yoidesu) Mabuti
お名前は(Onamacwa) Ano ang pangalan mo
私は~です(Watashiwa~desu) Ako ay si~
これは何ですか(Korewa nandesuka) Ano ito?
ありがとう(Arigato) Salamat po
どういたしまして(Doitashimashite) Walang anuman
私は嬉しい(Watashiwa ureshi) Maligaya ako
なんて美しい(Nante utsukushi) Anong Ganda!
あなたは親切だ(Anatawa shinsetsuda) Mabait ka
さようなら(Sayonara) Paalam
いくらですか(Ikuradesuka) Magkano ba ito?
高い(Takai) Mahal 安い(Yasui) Mura

私(Watashi) Ako あなた(Anata) Ikaw
あれ(Are) Iyon それ(Sore) Iyan これ(Kore) Ito
はい(Hai) Oo いいえ(He) Hindi
男性(Dansei) Lalaki 女性(Jyosei) Babae
水(Mizu) Tubig お湯(Oyu) Mainit na tubig
右(Migi) Kanan 左(Hidari) Kaliwa
近い(Chikai) Malapit 遠い(Toi) Malayo
早い(Hayai) Mabilis 遅い(Osoi) Mabagal
大きい(Ooki) Malaki 小さい(Chiisai) Maliit
良い(Yoi) Mabait 悪い(Warui) Masama
1 (Ichi) Isa 2 (Ni) Dalawa 3 (San) Tatlo
4 (Shi) Apat 5 (Go) Lima 6 (Roku) Anim
7 (Shichi) Pito 8 (Hachi) Walo
9 (Ku) Siyam 10 (Jyu) Sampu
月(Lunes) Martes 水(Miyerkoles)
木(Huwebes) 金(Biyernes) 土(Sabado)
日(Linggo)

- 独立年月日 1946年7月4日
- 面積 29万9,404平方キロ(日本の約0.8倍)
- 人口 約4,600万人(1979年推定)
- 主要民族 マレー系民族を主体として、ネグリティ族(原住民)、中国人、スペイン人との混血
- 主要言語 [公用語] 英語、ヒリノ語 [その他] セブアノ語、イロカノ語など (通用する外国語) スペイン語
- 主な宗教 キリスト教
- 政体 立憲共和制
- 国会 一院制、200議席
- 政党 [与党] KBL(新社会運動)、NP(国民党) [野党] PB(ビサヤの力)、MA(ミンダナオ連合)、KB(国民の良心)など
- 元首 マルコス大統領
- GNP 234億米ドル(1978年推計)
- 1人当たり GNP 510米ドル(1978年推計)
- 主要産業 農林業(砂糖、ココナッツ、木材、コブラ、鋳造、鉄、クロム、マンガン、金)
- 輸出額 (FOB) 37億7,200万ドル [主要輸出品目] 砂糖、ココナッツ油、銅鉱石、木材、コブラ [主要相手国] アメリカ、日本、オランダ、ドイツ連邦共和国、インドネシア [対日輸出額] 15億8,276万ドル(1979年)
- 輸入額 (CIF) 55億900万ドル [主要輸入品目] 原油、機械類、金属製品 [主要相手国] 日本、アメリカ、サウジアラビア、ドイツ連邦共和国、イギリス [対日輸入額] 16億2,203万ドル(1979年)



第三回 計画行政学会 福井大学で開催

計画行政学会は一九七六年八月に設立され、第一回全国大会を東京で開催した。この大会のテーマは「ランニング・マニフェスト」であったが、一九七九年、名古屋での第二回全国大会では「計画行政における中央と地方」というテーマで開催されている。今年の第三回全国大会のテーマは「計画行政における地域性」となっており、本研究会顧問の今野修平福井医科大学教授は分科会を二題発表を行うことになっている。大会は十一月八日・九日に、研究発表会が開かれ、分科会工部「計画行政における圏域」工部「地域経営と企業」工部「離島と計画行政」に分かれて発表及び討論が行われる。工部の発表テーマは次の通り。

計画行政における圏域設定の問題——今野修平(福井医科大学) 都市計画における圏域設定の問題——加藤晃(岐阜大学) 地方圏域における道路整備——本山 莉(建設省) 圏域整備と土地利用調整問題——桑島深(掛川市) 土地利用調整問題と生涯学習都市構想(掛川市の場合)——原田克己 土地利用適正評価における地域能力の研究——マブローレイ法の改良——堺伸治(財・都市調査会)

都市環境の測定と評価——仲上健一(財・都市調査会) 土地利用調整問題に関する研究——京都府立総合政策センター 地域変化の計画方法と事例——神奈川大学——本多正久(地域科学研究所) コミュニティ論における計画の問題——金子勇(京都大学) 地域におけるコミュニティ・プランナー育成に関する調査報告

——花岡利幸(山梨大学) 植木幸生(産業開発青年技術協会) 圏域の階層性と合理性の概念——河崎俊二(神戸商科大学)

計画行政学会入会の御案内

会員二名の推薦を受けて申し込んで下さい。常務理事会の議を経て、総会の承認を受け、入会費の資格が得られます。常務理事が認め、この承認の承認が得られ、この間も会費に準ずる特典があります。会費は個人会員、年額五千円です。入会希望の方は、広報担当の加藤まで一報下さい。推薦者名記入の入会申し込み書書きを下さいあげます。

第7回理論研究会報告 55. 10. 2 (木)

報告者 村松氏 討論者 全員

2. 情報量——事象と記号・確率モデル・情報の定量化・エントロピー
今回は、情報理論の基本的事項についての学習が中心であった。最初に、情報を集合論的演算として定義し、次にこれを確率論によって解説した。次に情報量を定義する三つの条件からこれを満足する関数 $f(p) = -\log_2 p$ を導出した。そして、個々の事象の情報量の総和を求め、記号系列の長さに対応する事象の数で平均をとることによって求める平均情報量を、エントロピー $H(E) = -\sum_{i=1}^n p_i \log_2 p_i$ (ビット) と呼ぶ。エントロピーとは「事象が実際に起こる前の時点で、一件どの事象が起こるのだろうかという漠然とした不確かさ」を示すものである。今回は、具体例によって、より理解を深めることになっている。

次回 11月6日(木) 於 Community

海外研修マニラ準備会報 (第一報)

十月七日、コミュニティからの風琴亭に会場を移し、今回の準備会が開かれた。参加員が確定して、いよいよの渡航日程は十月十四・十五で交渉を進めること、今後の準備会の予定はどが話し合われた。九月二十四日付号外の反響は大きく、目下のところ十人前後の参加が予定されている。最終参加申し込み切りは十月三十日、REFE活動の一環として、81年三月五日、タガログ語現地民話マニラ研修会の成果は、大いに期待されている。

一月八日 結団式

マニラ研修会は十月三十日

分科会だより

住 木 車

1980. 10. 7 於 Community

KJ法によるまとめの継続、これまでのすべてをカードにして取りまとめることとし、利便性分けて決めてカード化することとした。94回以降は話が歴史的にさかのぼることが中心となっていた傾向があるため、現在における「住み方」の問題点等について自由に話し合う。住分科会から自由を取った何し残らないであろう。したがって住分科会=自由分科会の汚名を有難く受諾することを確認する。

次回 10月30日(木)

1980. 10. 8 於 Community

底喰川の流域解析作業70-1について、児玉氏の案を討議し、メッシュをベースに作業を進めること合意。流域に含まれる249メッシュについて、1/2500基本図を用いたデータ作成作業の分担を決める。(作成データリスト)
水路、下水道、公園
学校、グラウンド、駐車場
次回は、下水道網を検討し、流況を明らかにする予定。

次回 10月29日(木)

1980. 9. 25 於 Community

後期の第1回目として、これからの方角づけを行った。その結果、下記の予定で、これから活動を行うことになった。
9~10月 施設、開発、流動の各関係論に対する基礎的調査
10~11月 各関係論の発展
12月 まとめ

次回 10月29日(木)

お詫び

本紙九月十日付七号、分科会だより、住分科会の欄に、「住分科会は自由分科会の汚名をばらす」との誤記があり、不適当でした。により陳謝いたします。

MANILA 報告会のお知らせ

1981.1.14～17に行われた海外研修会のスライド（金沢和夫氏撮影及び編集）8mmフィルム（稲葉隆夫氏撮影）の映写会が行われますので、会員の皆様の御来場をお待ちしております。

4月1日 PM 6:00～

福井大学 本多研究室

海外研修に参加した方は、写真および報告書原稿を持参して下さい。

第二期マンニラ報告書原稿の提出期

一昨年十一月の発足以来活動が続けてきた分科会、談話会、理論研究会、海外研修会の成果をとりあえずまとめて発表することになり、その原稿のメ切り日が三月三十一日となりました。各分科会長には、既に通知しておりますが、年度末の多忙期にもかかわらず、各分科会では原稿のとりまとめが進められています。

報告書は、全部で六十ページ予定されており、内訳は、各分科会が十ページずつ三十ページ、海外研修マニラが二十ページ、創刊の辞、その他が十ページとなっている。

マンニラ報告の執筆内容を見てみると次のように分けています。
本多稲葉「マニラにおける都市発展と交通体系」 児玉「マニラの港の配置とマニラ港」 長村「マニラに見る公園形態」 村松「マニラの人口構造とマニラ市街地拡大の過程」 金沢「マニラにおける地方の時代」 前田「マニラ市街地拡大の過程」 加藤「マニラにおける河川の実態」 松本「マニラの広域交通体系」 杉本「経済問題」

第1回海外研修会 報告 (Manila)

本研究会の規約にも位置付けられている海外研修は、会員6名の参加を得て、大成功のうちに終了しました。豪雪の中、不定期の交通網をたぐりまわし、1月13日 福井を出発し、暫く経たぬうちに屋空港を離陸した一行は、薄曇りのマニラ空港に着陸し、現地に滞在中の萩原氏、長谷川氏の歓迎を受けました。当日はマニラ市内の見所を一周し、歓迎パーティー会場では、パンブータンやフラダンスを楽しむコマもありました。15日は、最大の目的であるMMC、TTCの訪問を行い、現地の担当者との会員の席では、語学力の不足を痛感しました。その後、日本大使館を訪れ、海外協力の実情を知ることができました。16日は午前中に、郊外の調査を兼ね、タギタイへ速攻をなし、マニラの臭いを味わうとともに、田園風景や農業の実態を見学しました。そしてマニラ最後の夜は、現地で御世話になった人達を招待して、オヨナパーティーが盛大に行われ、ゲーム・レベールや鯉魚料理を前に、楽しい会話のひとときが、通くまで続けられました。萩原氏滞りの夕食のあいさつが、タラタラと出かけて、良い臭いもいだったこと、早朝のタクシーで罰金を請求されたことなど、エピソードの数々については別の機会に。

*** 理論研究会 報告 ***

第8回 55. 11. 6 発表者 稲葉
「情報理論の基礎」 3. 情報の発生と伝達
のうち、3.1 情報の種類 3.2 情報源 について発表・討論

第9回 55. 12. 4 発表者 稲葉
前回に続き、3.3 マルコフ情報源 3.4 通信路 および
4. 符号化について、発表・討論があった。

第10回予告 56. 3. 25 発表者 加藤
5. 連続的信号について

理論研究会に参加してみませんか！

現在のテキスト「情報理論の基礎」は3月で終わり、新しいテキストが始まります。これを機会に参加してみませんか。

分科会だより

住

何回となく熱心な会合を経て
報告内容は次のようになった。

1. はじめに (高区)
2. 研究目的と視点 (中村)
3. 研究の方法 (〃)
4. 来年度への若干の展望 (広瀬・中村)

富田氏 山下氏を迎えて、報告内容の最終検討を行うための

次回 3月27日

水

1981. 2. 18 於 Community

第1次原稿の提出日であり、各人の報告を検討し、最終稿の方針を決める。
(報告内容と分担)

1. 目的と背景 (児玉)
2. 現況の土地利用 (村松)
3. 損失機構の考之方の整理 (加ト)
4. 将来の土地利用と損失機構の変化
5. 段階的治水戦略 (坂本) (長村)
6. 今後の展望 (児玉)

10月以降の分科会開催日

10/29. 11/19. 12/10. 2/18

次回 4月15日(水)

車

1981. 2. 12 於 Community
報告書原稿の作成分担を決める。
提出期限は、3月18日としたが、都合により、4月1日に延期される。

1. はじめに
2. 交通系
3. 治水
4. 公害
5. 開発
6. 防災
7. その他

長い間、未定にまわっていたREFシンボルマークは、マニラ調査の員として撮影を担当した金沢和夫氏(地方課)にデザインを依頼することになりました。このシンボルマークは第一期報告書の表紙に登場することになっていますので、御期待下さい。

REFシンボルマークは金沢氏に依頼